

# 中通りの春まきタマネギ直播栽培では「トタナ」を 4月上旬に播種すると8月中旬に収穫できる

福島県農業総合センター 作物園芸部 野菜科

部門名 野菜－タマネギ－作型・栽培型

担当者 八木田靖司

## I 新技術の解説

### 1 要旨

福島県のタマネギ栽培は秋まき移植・直播栽培、春まき移植栽培があり、6月上旬から7月中旬に収穫時期を迎えるが、作業が集中し収穫の遅れが発生している。そこで、収穫作業時期の分散のため8月に収穫できる栽培体系を検討した。その結果、「トタナ」を4月上旬には場に直接播種することで8月中旬に10a当たり4t以上の収量を得られることを明らかにした。

- (1) 品種は肥大性の良い「トタナ」を用いることで8月中旬に収穫できる（図1、表1）。
- (2) 播種は4月上旬に行うことで、10a当たり4t以上の収量が得られる（表2）。
- (3) 播種作業は畝立同時多条播種機を用いて行った（図2）。

### 2 期待される効果

- (1) 他の作型と組み合わせることで作業時期を分散化できるとともに、これまでと同じ人数でより大規模に栽培できる。

### 3 適用範囲

- (1) 中通り平坦地のタマネギ生産者

### 4 普及上の留意点

- (1) 播種が早いと凍霜害を受けやすくなるとともに、気温が低いため出芽が遅くなり生育もばらつきやすい。また、播種が遅いと肥大期までに生育量が確保できず規格内球が減り減収する。
- (2) 栽培期間が梅雨時期と重なるため、畝は高さ20cm程度の高畝として明きよを設けるなど排水対策をとる。
- (3) 雑草及び病害虫被害により減収するため、タマネギ直播栽培に適用のある除草剤散布や中耕を行う。また、出芽時期のネキリムシ防除、5月以降のべと病やりん片腐敗病等の予防散布に努める。
- (4) 「トタナ」は、収穫が遅れると腐敗球が増えやすいため、倒伏後早めに収穫する。

## II 具体的データ等

月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月～12月
春まき 直播栽培	主な作業				播種	追肥			収穫・乾燥		
	病害虫 防除				タマネギ バエ	ネキリムシ、 ヨトウガ類	アザミウマ類				
春まき移植栽培		播種	定植			追肥			収穫・乾燥		
秋まき移植栽培									収穫・乾燥	播種	定植
秋まき直播栽培									収穫・乾燥		播種

図1 タマネギ春まき直播栽培の栽培体系

表1 品種による球径、球重の違い（郡山）

品種名	播種日	倒伏日	全球径 (cm)	全球重 (g/球)	規格内 球重 (g/球)
(2021年)					
ターザン		7月13日	5.6	88.9	123.5
もみじ3号	4月8日	7月16日	6.0	93.4	116.1
ガイア		8月2日	6.3	131.2	141.4
トタナ		8月9日	7.4	174.7	176.0
(2022年)					
ガイア	4月7日	8月3日	7.0	171.3	174.7
トタナ		8月10日	8.1	233.8	236.2

※施肥量は元肥 N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=5:30:5 (kg/10a)、追肥 N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=10:0:10 (kg/10a) とした。

※播種密度は畝間 150cm (畝幅 120cm、通路 30cm)、条間 24cm、株間 8cm の 33,333 粒/10a とした。

表2 播種時期による収量の違い（郡山）

品種名	播種日	倒伏日	規格内 球重 (g/球)	規格内 合計収量 (kg/10a)
(2022年)				
	4月7日	8月10日	236.2	4,761
トタナ	4月13日	8月10日	237.9	4,169
	4月25日	8月10日	210.3	3,763
(2023年)				
トタナ	4月5日	8月9日	206.1	4,544
	4月13日	8月9日	188.1	3,179

※施肥量は元肥 N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=5:30:5 (kg/10a)、追肥 N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=10:0:10 (kg/10a) とした。

※播種密度は畝間 150cm (畝幅 120cm、通路 30cm)、条間 24cm、株間 8cm の 33,333 粒/10a とした。



図2 播種作業の様子

※2023年4月5日撮影（福島県農業総合センター）

※播種作業はうね整形ロータリー（RL15S-KUC、クボタ）及びベルト式播種機（BS-4WUS、(株)向井工業）を用いて行った。

## III その他

1 執筆者 八木田靖司

2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和3～7年度

(2) 研究課題名 先端技術を活用した施設野菜・畑作物の省力高収益栽培・出荷管理技術の確立〔農林水産分野の先端技術展開事業（JPJ009997）〕

3 主な参考文献・資料

(1) 東北農業研究センター他，東北地域における春まきタマネギ栽培マニュアル，2020.

(2) 福島県農業総合センター他，営農再開地域の収益向上のためのタマネギ栽培マニュアル，2021.